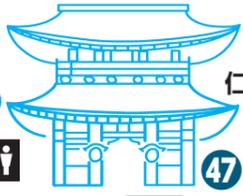


# 谷汲山門前街並マップ

市外局番 0585

## 谷汲山 華厳寺



巨大なわらじが掛かった仁王門。毎年2月の節分には4mの赤鬼が立つ。この赤鬼のまたをくぐると厄除けになるそう。



みまつ土産物店 47

立花屋 46

ほたる茶屋本店 45

えびや 44

海老屋 43

やまと 42

大樹屋 41

三桝屋 40

松本屋 39

松屋 38

石原商店 37

狸小屋 36

あうん坊 35

二葉屋 34

小松屋茶舗 32

長谷川商店 27

菊石谷汲 31

万寿屋 30

下里銘石店 29

末広屋 28

谷汲堂 9

長谷川商店 27

狸小屋 36

万屋 26

神山商店 25

髪かざりや 24

谷汲朝市 23

結城園 22

あさの 21

高正 20

魚銀 17

水月亭 15

IDOL 14

富岡屋 1

万蕾 2

井上商店 3

えのきや 4

もみじや 5

宮本屋 6

八王寺神社 6

宮本屋 6

天恵の里 7

水谷美術 8

大燈籠

谷汲堂 9

狸小屋 36

ほていや 11

だるま堂製菓 12

結城園 22

あさの 21

高正 20

ベーカリーハートピア 13

谷汲朝市 23

谷汲温泉 満願の湯 16

谷汲山 華厳寺

仁王門

谷汲山 華厳寺

## 食べる

- 55-2620 **1 富岡屋**  
満願そば、うどん、うなぎ丼
- 55-2501 **2 珈琲 万蕾**  
ネルドリップ珈琲、白玉だんご
- 55-2421 **4 えのきや**  
うなぎ丼、でんがく
- 55-2135 **5 もみじや**  
木の葉でんがく、うなぎ丼
- 55-2626 **11 ほていや**  
そば、うどん、秋の栗ご飯
- 55-2286 **13 ベーカリーハートピア**  
30種類の手づくりパン

- 55-2853 **14 喫茶 IDOL**  
ボリューム満点メニュー
- 55-2105 **15 水月亭**  
健脳料理、釜めし、うなぎ
- 55-2628 **19 谷汲しいたけ園**  
しいたけ専門店
- 55-2407 **26 萬屋**  
地元素材の季節料理
- 55-2447 **30 万寿屋**  
おでん、木の芽でんがく
- 55-2424 **32 小松屋茶舗**  
無農薬の素朴なお茶
- 55-2609 **34 二葉屋**  
椎茸丼、椎茸定食、だんご

- 55-2415 **35 あうん坊**  
食事処
- 55-2415 **38 松屋**  
木の芽でんがく、おでん
- 55-2522 **41 大樹屋**  
みそおでん
- 56-3843 **42 やまと**  
うどん、そば、天ぷら
- 56-3585 **45 ほたる茶屋本店**  
だんご、お茶のロールケーキ

## 買う

- 55-2759 **3 井上商店**  
満願線香、散華台紙
- 55-2417 **6 宮本屋**  
山ごんにゃく、もみじせんべい
- 55-2262 **7 天恵の里**  
植木、鉢物、盆栽、富有柿
- 56-3741 **8 水谷美術**  
表装、御印譜、木彫
- 55-2015 **9 谷汲堂**  
掛軸表装専門店
- 55-2631 **12 だるま堂製菓**  
あられ販売
- 55-2631 **17 魚銀**  
食料品
- 55-2631 **18 夢前**  
農産物直売店

- 55-2528 **20 榎高正**  
銘酒谷汲おどり、満願酒
- 55-2539 **21 あさの**  
天日干し減塩梅干、漬物
- 55-2542 **22 結城園**  
菊花石
- 55-2631 **23 谷汲朝市**  
地元産の新鮮野菜
- 55-2723 **24 髪かざりや**  
髪かざり
- 55-2428 **25 神山商店**  
菊花石、秋の柿や栗
- 55-2508 **27 長谷川商店**  
昔なつかしい駄菓子
- 55-2273 **28 末広屋**  
秋の焼き利平栗
- 55-2152 **29 下里銘石店**  
石の専門店

- 55-2527 **31 菊石谷汲**  
菊花石
- 55-2527 **36 狸小屋**  
骨董品、美術品
- 55-2527 **37 石原商店**  
あげまめ、ごんにゃく
- 55-2139 **40 三桝屋**  
名物ういろ
- 55-2658 **43 海老屋**  
もみじせんべい、珈琲
- 55-2658 **44 えびや**  
五平餅・しょうゆだんご
- 55-2437 **47 みまつ土産物店**  
谷汲のお土産(柿ようかんなど)

## 泊まる

- 55-2326 **39 松本屋**  
明治元年創業の料理旅館
- 55-2121 **46 立花屋**  
仁王門前の料理旅館

## 癒す

- 56-1126 **16 谷汲温泉 満願の湯**  
参拝の後にちょっと一湯

**【お問い合わせ】**  
揖斐川町観光プラザ  
Tel 0585-55-2020  
平成31年3月発行

ここは旧名鉄谷汲駅舎。  
大正時代の赤い電車がレトロだね。  
モ510形  
モ750形  
産業考古学会  
推薦産業遺産認定

巡礼者が旅の道中に  
使った箸を納めたとい  
われている箸納め地蔵。  
7/24には地蔵祭があるよ。



ご本尊のご霊木  
「えのき」にちなん  
だ屋号なんだよ。

参道には桜と紅葉が  
交互に植わってるんだ。  
春と秋はまるでトンネル。  
最高だ!

紅葉がきれいだよ。



毎年2月には  
盆梅展が  
開かれるよ。



赤いポスト(今は使  
われていない)と公  
衆電話があるよ。

参拝の行き帰りにちょっ  
と寄って一服にはびったり。  
頼むと観光ガイドもして貰  
えるんだ。

待ち合わせに  
もってこいの  
時計台。

谷汲踊りで実際に  
使われた「シナイ」が  
店内に飾られて  
いるよ。

揖斐川町の花  
はなももの木と  
ウッドデッキが  
お洒落な公園。

ギフチョウをはじめ、  
昆虫の標本が何と  
350種! びっくりの  
昆虫館だ。

箸納め地蔵

谷汲山 華厳寺

谷汲山 華厳寺

谷汲山 華厳寺



# たにやんとぐみっちの なぜなに谷汲山

## 2 ご本尊は大きくて、七尺五寸もあるんだ！

**ぐみっち** ところで、その十一面観世音さまって、どんな仏像なの？

**たにやん** これは難しい質問だね。実は谷汲の人たちもほとんど見たことが無いんだ。ただ、すごく大きな、立派な仏像だという話は伝わっているね。

**ぐみっち** いままで、ずっと大切に仕舞われてきたんだね。

**たにやん** そう、この仏像の話をするには、谷汲山華厳寺のそもそもの由来から話しなければならぬんだけど、聞きたい？

**ぐみっち** 教えて、教えて、たにやんさん。

**たにやん** またまた、たにやんさんと来たね。いいでしょう。それではちょっとタイムワープをして1200年前の東北地方へ行ってみようかね。

**ぐみっち** え、何でまた東北まで行っちゃうの？

**たにやん** そもその起りはね。いまの福島県会津地方の豪族で大口大領という人が、自分の地所に十一面観世音を建立したいと思い立ったことから始まるんだ。

**ぐみっち** 岐阜県谷汲の話が、東北の会津から始まるんだ？

**たにやん** そう。で、この大口大領という人が、まず第一にお像を作るための霊木を探している。ある夜、夢の中に一人の童子が現れてある場所を指し示したので、そこへ行ってみると大きな榎があったので、これこそお告げの木だと、さっそくこれを譲り受けて、京都へ運ぶんだ。

**ぐみっち** ひゃー、今度は東北から京都へ行くの？

**たにやん** これで驚いちゃいけないよ。まだまだ先があるんだから。さて、大口大領はこの榎を、当時京都で有名な彫り物師に頼んで十一面観世音を作ってもらったんだ。大きな像で七尺五寸というから、約2メートル半くらいの高さになるね。

**ぐみっち** すごい、見上げるような大きさだね。

**たにやん** そう。で、ここからがまた面白くなるんだけど、どうしてこのお像が谷汲に来たのかという説が二つあるんだ。聞きたい？

**ぐみっち** もちろんよ。もったいつけないで、ねえー、早く教えて。

## 5 西国33ヶ所の巡礼とは

**ぐみっち** よーくわかりました、たにやんさん。でも、もう一つ教えて。33ヶ所の巡礼で谷汲山は満願寺って言うけど、これはどういう意味。

**たにやん** よくぞ聞いてくれました。これこそ私の一番話したいところ。まずは33ヶ所の巡礼とはなんぞやという話からいきましょうかね。

**ぐみっち** うわー、すっごく気取った言い方ね。でもいいわよ、はい、ちゃんと聞きますよ。

**たにやん** 西国33ヶ所巡礼の始まりは、大和の長谷寺、徳道上人といわれているんだ。どうして33ヶ所かというの。観世音菩薩は33の違った姿で現れて、人々を救うと法華經に記されている。だからこの尊い数字と同じだけのお寺を回って身を清め、極楽黄土の道を探すとというのが巡礼の旅なんだ。

**ぐみっち** 33という数字にはそういう意味があったんだ。

## 7 幾多の戦火をかいくぐり復興した華厳寺

**ぐみっち** それにしても、長い間にこのお寺もいろいろ大変な目にあってるんだね。

**たにやん** そうだよ。鎌倉、室町、戦国と戦乱の時代が続くだろう。桓武元年(1330年)には、新田一族の堀口貞満が当山の巔にたてこもり、その戦いで兵火を受け、本堂だけがかるうじて残ったといわれているし、さらにその後、正中元年から文明7年にかけても兵火でまったくの荒廃に帰してしまっただ。でもこの時も薩摩国鹿兒島の慈眼寺の住職道破拾穀上人が、霊夢を感じて再建したといわれている。でも、残念ながらその後も幾度かの戦いなどでさびれ、打ち捨てられたようになってしまっただけで、明治8年に豪泰法印が再建の願主となって、明治12年に再現され、現在のようになったんだよ。

## 8 青銅の鯉

**ぐみっち** ふ〜ん。よくわかったわ。それと最後にもう一つ。本堂の向拝の両側の柱にピッカピッカに光った青銅の鯉が取り付けられてあるでしょう。あれはいったい何？

**たにやん** ぐみっちも、なかなか観察が鋭いじゃないか。うん、あれは「精進落としの鯉」といってね。33ヶ所の巡礼をして満願のお参りをした後であれに触ってなめると精進落としとなるといわれているんだ。ちょっと面白い習慣だろう。さあ、谷汲山の由来はだいたいわかったよね。折角だから華厳寺をお参りにしてこようか。

**ぐみっち** うん、そうしよう、そうしよう。そして後で門前街に行っておいしいものを食べようよ。え〜と、鮎の塩焼きに、しいたけご飯。うなぎに、満願そば、それから木の芽団子に…

**たにやん** おいしい、そんなに食べられるのかい。それと、そうそう、お土産も良いね。こんにゃくや生しいたけ、お茶に、自家製のお漬物なんかがいいね。さあ、まずはお参りに行こう。

## 1 ご開帳って何!?

**ぐみっち** たにやんさん、ちょっと教えて欲しいんだけど。平成21年3月から谷汲山華厳寺である、ご開帳ってどういうもの？

**たにやん** やれやれ、たにやんさんと来たね。いいですよ。お教えしましょう。

**ぐみっち** そんなに、もったいつけないで。早く、早く。

**たにやん** と、いってもね。これが結構大変なんだ。まずご開帳だけ。これは文字通り「帳(とばり)を開く」という意味でね、いつもはお寺の奥の厨子などに大切にしまわれている仏さま、例えば秘仏なんかをある一定期間に限り信者に参拝して貰い、結縁の機会を作るといって宗教行事のことをいうんだ。

**ぐみっち** ふ〜ん、宗教行事なんだ。

**たにやん** そう、だけどね。これは例えば仏像などでなくても、お寺や先師の記念の年だとか、お堂などの建立や改修の時。また特別な法会の奉修などにご本尊の結縁をいただく、そんな時にご開帳というんだ。

**ぐみっち** そうすると、今度の谷汲山華厳寺のご開帳はどっちになるわけ？

**たにやん** 華厳寺創建以来のご本尊、大悲十一面観世音が拝めるわけだから、秘仏のご開帳というわけだね。しかも今回は約50年ぶりだから、ものすごく大きなイベントといえるわけだよ。

**ぐみっち** すごい。わたしも絶対参りに行こう。

## 3 どうしても動こうとしない観音様

**たにやん** えへん。それはね、一つは、出来上がった像を会津へ運ぼうと、台車に乗せて美濃国の山間まで来ると急に動かなくなって、押しても引いても動く気配がない。しかも像が何倍も重くなっていくんだ。それでね、そうかこれは、きっとこの像がここに留まりたいということなのかと、この地を永住の地と決めたとする説だ。

**ぐみっち** へー、それでもう一つの説というのは、どうなの？

**たにやん** まま、そうせかさないで。もう一つはね、京都で仏師に頼んで彫り上げて貰ったところ、この観音様がね。突然動きだし仏師の差し出す笠や履き物、杖を自分でつけて、一人で歩き出したというんだ。

**ぐみっち** うわー。まるで劇画か、映画の世界だね。すごいですごい。

**たにやん** とにかく、どンドン歩いて美濃の赤坂を過ぎたところで、「遠い奥州へは行かない。この先の山中に有縁の地があるので、そこで衆生を済度する」といって、丁度いまの華厳寺の南にある丸山まで来たところで一歩も動かなくなったというんだ。

## 4 谷汲山のいわれ

**ぐみっち** その仏様と谷汲は、よほど強い縁があったということなんだね。

**たにやん** そうだろうね。いずれにしろ大領はここが結縁の地と思い、尊像を安置することにしたんだ。ちょうど、この山中で修行をしていた豊上人という聖(ひじり)が住んでいたの、その上人と力を合わせて山谷を切り開き、堂宇を建てている。近くの岩穴から油が滾々と湧き出して来たんだ。だから、それより後は燈明に困ることが無かったというんだね。これが開山の年、いまから1200年前の延暦十七年、桓武天皇の時だったんだよ。

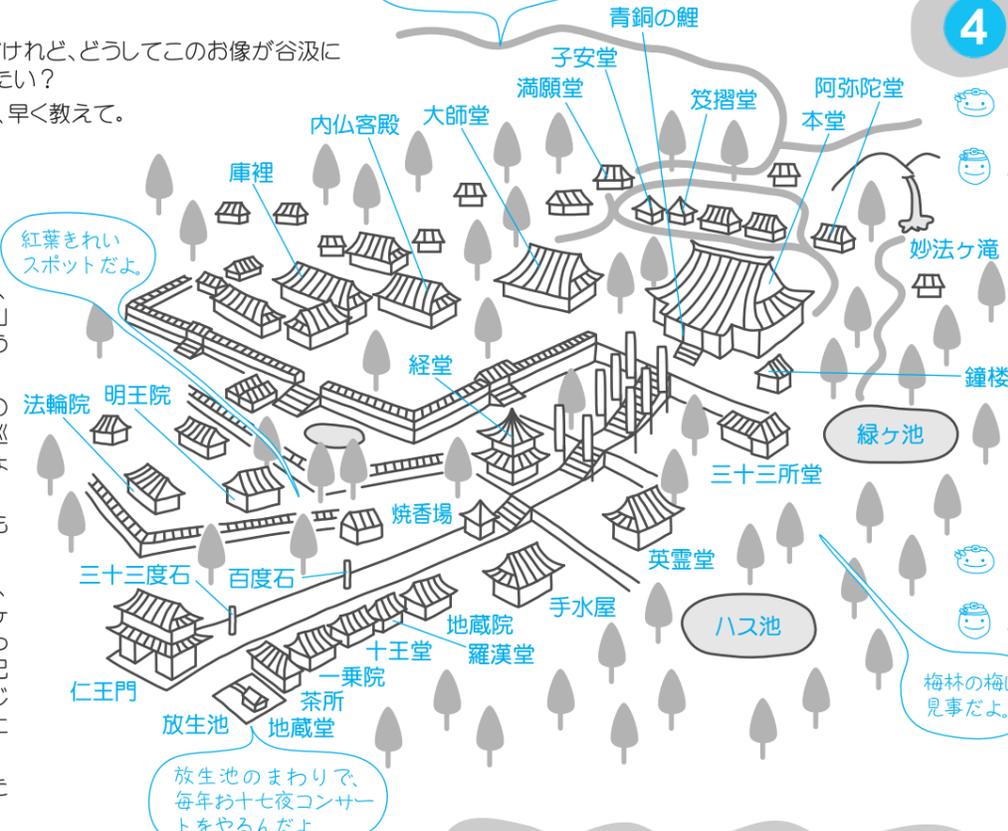
**ぐみっち** わかった！谷汲山という名前はそこから来たんだね。

**たにやん** その通り。それとこの尊像に華厳經が書かれていたのが華厳寺と呼ばれるようになったんだね。で、この話をお聞きになった醍醐天皇が勅願を出されてね、谷汲山の山号と華厳寺の扁額を賜った、とこういってわけなんだ。

## 6 満願のあかし、笈摺堂(おいづらどう)

**たにやん** そう、それでね、養老二年(718年)のある夜、道徳上人は夢の中で、人々を災いから救う為に33の観音霊場を巡るようにと閻魔大王よりお告げをうけて、巡礼の旅をしたのがいまの西国33ヶ所のはじまりといわれているんだ。でも、その後一度途絶えてしまっただけで、約270年後、花山法皇によって再興されるんだ。花山法皇は33ヶ所の観音霊場を巡幸され最後に当山にいらして、それまで纏っていた笈摺(おいづら)を満願の印に奉納したといわれており、それ以来、谷汲へ来た人は満願のお礼に、笈摺を奉納することが慣例となったんだ。だから、すごだろう谷汲山の本堂の裏にある笈摺堂にはもう何千、何万という笈摺がいっぱいなんだよ。

**ぐみっち** うん、もうすごく古いものから、新しいものまで、びっくりするくらいたくさん置いてあるよね。



## 谷汲イベントカレンダー

1月	初詣
2月3日	節分祭
2月上旬～3月上旬	たにぐみ盆梅展、雛人形展
2月18日	豊年祈願祭(谷汲踊)
4月上旬	さくらまつり(谷汲踊)
6月中旬～7月下旬	谷汲ゆり園開園
8月17日	お十七夜コンサート
11月第2日曜日(予定)	谷汲もみじまつり(谷汲踊)
11月第3日曜日(予定)	横蔵もみじまつり
毎月18日	谷汲山十八日まつり

